

業界から一言

製造業

食料品製造／洋菓子関連は、自社ブランド製品は低調であるが、OEM供給が好調で前年比微増。ナッツ類、砂糖などの原材料価格の上昇と原油価格の高騰に伴う包材の値上げが収益を圧迫。水産物加工は、原料費の高騰に伴う製品値上げを行った企業があり、結婚式用食材が好調で売上高は前年比微増であるが、中国との競争により原料費が高値安定のため、採算は厳しい。

繊維・同製品／織物は、原油価格の高騰、中国のカーボン素材の不足に伴い傘の骨組みの入手が困難。クールビズの影響でネクタイの問屋在庫が増加し、発注量が前年比減。衣服製造は、短納期対応の差により企業間格差が拡大するなど、依然先行きに不安。

木材木製品／木材価格は三ヶ月間安値安定しており、杉材を中心に素材の品薄状態が継続。このため、販売価格は値を戻しつつあり、今後の動きに期待。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、民間物件の受注増により前年比増であるが、全体的な契約数量が減少しており、厳しい状況が続くと予測。砂利販売は、砂利採取許可の遅れが原因で未だに予定生産量の確保できず。加えて県内河川での原石確保が困難であり、販売価格の改定が必要。

鉄鋼機械金属／機械

製造の稼働率はここ数

ヶ月安定しているが、一回あたりの発注量が減少。

宝飾品／地金価格の高騰分の転嫁が困難な商品があり、採算面が悪

化。需要の低迷や安価な輸入品の影響により、今後とも厳しい状況が続くと予測。

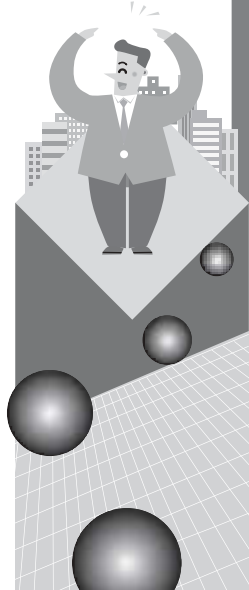
非製造業

小売業／水産物は、大型ショッピングセンターの開店の影響で売上が減少した小売店がある。また、原油価格の高騰に伴い、値上がりした製品の需要の冷え込みが懸念。食肉小売店は、豚枝肉、鳥

肉の価格は安定してきたが、牛肉は、低価格帯の国産牛も高値安定。加えて、ガソリン、包装資材などの石油製品の価格上昇が経営を圧迫。家電は、九月の高温と半期決算の影響から、エアコンが好調

また、映像関連製品が牽引して全体の売上を押し上げたが、量販店が好調であり、小売店は厳しい。ガソリンスタンドは、元売り各社

が値上げを実施したのに伴い、二円程度値上げを実施したが、販売量が減少し、収益が悪化。低価格帯の車が売れ筋であり、加えて値引きにより、販売台数を確保しているため、売上高、収益とも減少。商店街は、個人所得の減少、消費者の買い控えの影響で売上が減少。



山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告

(平成17年 9月分)

景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業においては、「業界の景況」、「売上高」とも大幅に回復したが、「収益状況」は不変。非製造業においては、「売上高」「収益状況」はやや回復したが、「業界の景況」は悪化した。全体としては、3指標ともやや回復した。

製造業において、原料調達コスト、製造コストの増加分を販売・納入価格に転嫁できない企業の経営が逼迫するなど、収益が減少している。また、消費者の買い控えを懸念する小売業の先行きへの不安感がますます高まっている。

サービス業

ホテル・旅館は、愛知万博の影響があり低調であった。接客サービス、インターネッ

ト予約など消費者ニーズへの対応力の差による企業間格差が拡大。自動車整備は、車検整備料金の低下に伴い、売

高が前年比減。

建設業

／Aクラスのゼネコンが減少するなど、公共事業のコスト縮減と発注量の減少の影響により収益が悪化。安値受注が可能な企業は、型枠工事をはじめ、基礎工事、鉄筋工事などの業界において年内は多忙であるが、安値安定の継続、来年以降の仕事量の減少、元請け会社の倒産など懸念材料が多い。鉄構工事の手持ち工事量は企業間格差が出てきており、併せて県内物件は小型化(二〇〇三〇t)しているため、経営状況は思わしくない。公共物件の受注は皆無。管工事は、請負工事の減少に伴い、収益が減少。

運輸業

／タクシー業界は、全体的に依然として厳しい。バス業界は、秋の観光シーズンの予約が若干少なく先行きに不安。中小のトラック業者は、燃料費の高騰分の運賃への転嫁が困難で、経営が一段と厳しい。